

大和郡山市文化総合施設新築工事(やまと郡山城ホール)

受賞機関 大和郡山市

はじめに

歴史が深く、多彩であり、古くから栄えてきた大和郡山市。あおによしと歌われた平城京の頃から、郡山城築城を経て今へと続いてきた大和郡山市には、忘れかけていた原風景がある。

かつてここは五軒屋敷とよばれた家老屋敷であり、お堀に映える郡山城を前にし、時を重ねた民家へと連なるこの地に私たちは“麓”をみつけた。

大きくかけた屋根は大和の山々と呼応し、深い軒は城との調和をはかり、白い壁は民家へとつながる。京都の「こまやかな和風」とは趣を異にする奈良の「おおらかな和風」をデザインの基調とし、白壁にいぶし銀の瓦をのせた屋根を幾重にも重ねて、軒の深い庇を廻し“麓の風景”を創った。

伝統的なしつらえで創ったこの“やまと”の佇まいがまちに溶け込み、先人たちが培った歴史、文化をさらに後世に受け継ぎ、心の豊かさ、美しさが感じられ、香り高い文化を創出できる施設となるよう願っている。

事業の概要

事業実施期間：1999年11月～2001年5月

事業費(工事費)：5,645,154,000円(文化会館・図書館)
284,846,000円(武道場)



大ホール客席・舞台の一体感を生む



大和郡山城跡側から見る全景空撮



小ホール客席壁面スリット照明



円形書架配置のある児童開架室

施工会社：浅沼組・藤本建設特定建設工事共同企業体

規模・構造：RC造、一部S造、地下2階、地上4階

建築面積：文化会館・図書館：7,353.27㎡

武道場：801.41㎡

延床面積：文化会館・図書館：16,670.83㎡

武道場：1,250.17㎡

事業の特徴

限りなく成長を続けてきた時代から成熟した時代となり、人々の価値観も多様化し、物質的な豊かさよりも心の豊かさが求められるようになってきている。この時代背景のなかで、これからの公共施設に求められるものとして“本物”に出会うことができる施設づくりを目指した。

施設は中庭を持つエントランスホールを中心に、南側に大・小ホールの文化会館、北側に市立図書館を配置している。

大ホールは「ホール・in・ホールシステム」を採用することにより、演劇系に対応できるプロセニウム形式の舞台と走行式音響反射板・前舞台により、専用コンサートホールと同等の音響性能を持つホールを可能とした。ホールの形式は最適な音響が得られるシューボックス形式の空間とし、客席の1、2階に敷席を設けることにより、観客と演者が一体感を感じられる空間とした。

ホール内騒音レベルはNC - 20、残響時間は音響反射板使用時1.7秒を実現している。図書館は敷地制約上、2層構成になることを利用して、1階を一般閲覧室、2階を児童閲覧室とした。この構成にすることにより、大人も子供も気兼ねなく本を楽しむことができ、将来にわたっても十分な蔵書数を確保することができた。蔵書数は開架12.6万冊、閉架8.4万冊、合計21万冊まで収容可能である。

地下駐車場は階高を必要最小限におさえ、床に湧水処理パネルを採用して地下湧水ピットを無くして排出土量を削減し工事費と環境負荷の低減に努めた。

受賞賛助会員 (株)浅沼組奈良営業所